

## ITS 国際標準化の動向

### ISO/TC204/WG5 の状況

中村 徹

ITS・新道路創生本部 調査役

#### 1 ISO/TC204/WG5

ISO/TC204/WG5は自動料金収受システム（ETC）に関する国際標準を検討しているグループである。会議のメンバーは、21カ国より47人が登録し、毎回30名程度が会議に出席している。国際会議は欧州にて年間4回開催され、4年に1回欧州以外で開催している。

WG5で検討している内容は、DSRC方式、GNSS（全地球衛星測位システム）とセルラー電話網（CN）を使用したGNSS/CN方式、車載器と路側機の試験方法、システムアーキテクチャ、セキュリティなどである。検討項目の一覧を図1に示す。

EETS関連のシステムの標準はTS（技術仕様書）として完成しているが、セキュリティ・フレームワークやセキュア・モニタリングの車両特定について欧州規格として作業が実施されている。

EETSは2012年10月から実施予定であり、欧州各国は準備中とのこと。

※その後、欧州各国の法や規制が不十分であること、プロバイダーや通行料を管理するオペレータの準備不足のため、延期となった。

#### b) アジア提案項目

アジア（日本）から2項目を提案してドラフト作成作業を行っている。チューリッヒ会議では、作業状況の報告を行い、国際メンバーからコメントを受け取った。

アジア（日本）が作業している2項目は以下である。

・NP 16785 DSRC車載器と外部デバイス間とのインタフェイス

DSRC車載器の機能拡張を行うための外部インタフェイスを定義し、GPSを利用したEFC（自律型

#### 2 最近の会議の動向（チューリッヒ会議）

①日程 2012年6月27日～28日

②場所 チューリッヒ（スイス）スイス道路交通協会

③会議概要

a) EETS（Electronic European Tolling Services：欧州統一課金サービス）関連

表1 国際会議メンバー国

Australia	Austria	Canada	China	Czech	Finland
France	Germany	Italy	Japan	Korea	Netherlands
Norway	Poland	Portugal	Slovenia	South Africa	Spain
Sweden （議長国）	Switzerland	United Kingdom			

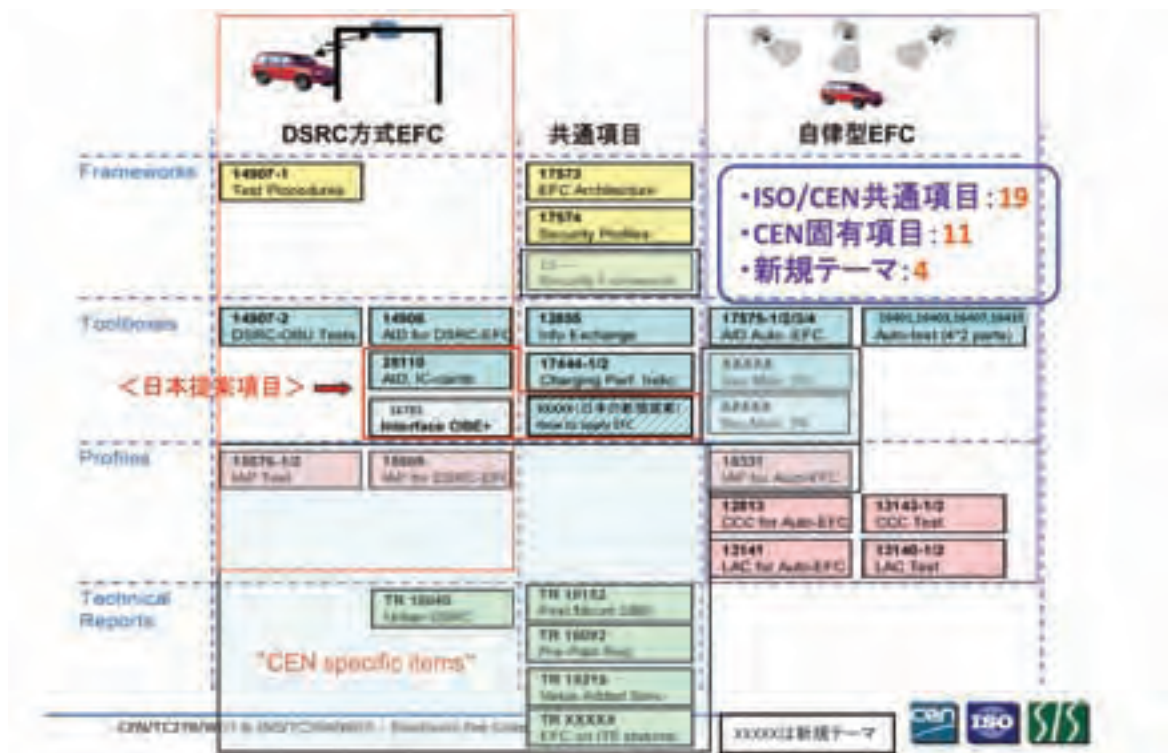


図1 WG5 検討項目一覧

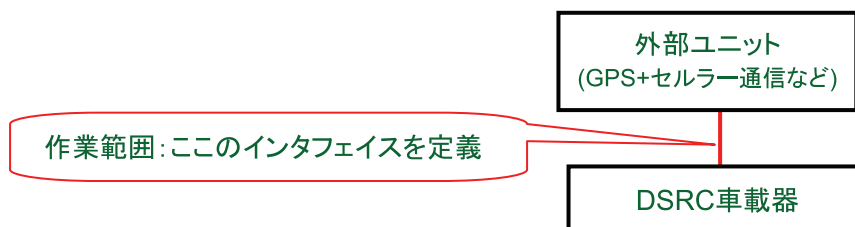


図2 NP16785の作業範囲

EFC) への対応を可能とする (図2参照)。

- ・ prTR xxxx 共通支払い媒体を使用するインターモダル交通サービスへの EFC 標準の適用法  
当項目は、日本、韓国、シンガポールなどアジアで使用されている IC カードの決済情報に関する標準化項目であり、ETC における IC カードを利用した決済情報の整理を行う。

c) 情報提供

フランスとスイスから道路課金の情報提供があった。

- ・ フランスの Ecotax: フランス環境省の担当より報告  
対象車両: 3.5t 以上の重量車 (フランス国内の対

象車両は 80 万台)

対象道路: 1 級国道 10,000 km、2 級国道 5,000 km (課金ポイントは 4,000 カ所)

課金方式: GPS + セルラー通信で実施 (運用中の有料道路は DSRC 課金で Ecotax 対象外)

実施時期: アルザス地方が 2013 年 4 月、その他の重量車課税領域では 2013 年 7 月より

- ・ スイスの LSVA (重量車課金): スイス連邦関税局の担当より報告

対象車両: 3.5t 以上の重量車 (LSVA: Distance-related Heavy Vehicle Fee の独語略)

課金方式: DSRC + 走行距離計測方式 (GPS 付

き DSRC 車載器、タコグラフも接続)  
実施時期：LSVA は 2001 年より実施、EETS は  
2013 年より実施予定

日本の ETC 誕生から現在までの状況をまとめた「ETC  
アーカイブ」を冊子としてまとめました。

当冊子を希望される賛助会員には、1 冊無料でお配り  
いたします。

一般の方(賛助会員ではない方)には、1 冊 2,000 円(送  
料込み)でお譲り致します。

### 3 ISO/TC204/WG5 への日本の対応

WG5 国際会議の出席者は、欧州が多く、欧州以外の出席者は日本と韓国だけとなっている(カナダは 2 年ほど欠席、中国は常に欠席)。このような出席者の構成のため、国際標準は欧州で決定された規格(欧州規格)がそのまま国際標準になりやすく、欧州規格=国際標準とならない様に、日本からコメントやアジアの仕様を提出している。

WG5 国際会議では、日本がコメントや新規提案をしても、一国のコメントや提案と思われるため、現在は韓国と共同して国際標準の作業を進めている(例：共通支払い媒体を使用するインターモーダル交通サービスへの EFC 標準の適用法)。

### 4 日本の問題点

日本は島国であり国際標準は何の意味があるのかとか、日本独自のシステムでやれば国際標準には関係ないとか、国際標準の会議に出席して何の意味があるのか、など国際標準について否定的な意見を思っている人は少なくない。しかし、国際標準の活動をやっているからこそ、欧米から独自システムの運用についてクレームが無いと言うことを知っていただきたい。

日本から国際標準を提案することは、日本の技術を国際標準にしやすくなり、国際市場への展開もしやすくなると思われる。現在、欧州の GPS を利用した課金システムに対抗し、NP 16785 (DSRC 車載器と外部デバイス間とのインタフェース)を提案している。このドラフト作成作業に参加している日本企業がほとんどいないため、ドラフト作成作業が予定通りに進まないという問題点を抱えている。今後、協力して頂ける企業が増えることを期待する。

### 5 おわりに

ISO/TC204/WG5 国内分科会の委員のご協力により、